



ツチガエル (*Glandirana rugosa*)

アカガエル科

北海道から九州にかけて、国外では中国、朝鮮半島に分布する、3cmから5cmほどのカエルです。

ため池や湿地、河川などの、水辺を離れずに地上で生活し、主に小さな昆虫類を食べています。

近年、秋に水田の水が抜かれるようになって、水田から姿を消していきました。ため池はツチガエルに残された大切な生息環境です。

写真は、土師地区の中の池で撮影しました。



コシアキトンボ (*pseudothemis zonata*)

トンボ科

大きさは4cm～5cmで、北海道を除く日本各地に5月から10月にかけてよく見られるトンボです。木に囲まれた池や沼などに生息し、市街地の公園の池でも見ることができます。

腹部の白い部分が特徴で、この部分が空いているように見えることから、コシアキトンボと名づけられました。

写真は、土師地区の奥の池で撮影しました。



ハイイロゲンゴロウ (*Eretes sticticus*)

ゲンゴロウ科

開けた水域を好み、くるくると泳ぎます。

大きさは、1～1.5cmで、灰色の透き通った硬いはねが特徴です。目が、まん丸なところも特徴です。

名前の通り、体のハネの部分が灰色で小さな黒い点々が縦にきれいに並んでます。長い脚があり、それをオールのように使って水中をすばやく泳ぎ回ります。

写真は、行重地区の奥羽部池で撮影しました。



ヒメガマ (*Typha domingensis*) ガマ科

北海道から沖縄にかけて、ため池や河川、水路、休耕田などに生育しています。約2mの高さに成長し、6月から7月にかけて、花茎に茶色の雌花群と雄花群をつけます。写真の穂は雄花群で、その上側に雌花群がつきます。

秋に花粉が飛散したあと、穂は膨らんで白い綿のようになります。これが、神話で因幡の白ウサギが体に付けてもらった蒲の穂です。

写真は、土師地区の新池で撮影しました。



フトイ (*Schoenoplectus tabernaemontani*)

カヤツリグサ科

湿地や、浅い池などに生える植物で、高さは2m近くにもなります。名前は、太い藪草いぐさという意味ですが、つぐ九十九、まるすげ等の古い呼び名も知られています。

むしろ筵などの材料として利用されてきた植物ですが、今では絶滅危惧種であり、調査した香寺町の64カ所のため池のうち1カ所で見つかっていません。

写真は、土師地区の新池で撮影しました。